桑の緑

小坂小学校　学校便り
令和３年５月２８日
文責：校長　江上　知男

個別指導する支援員

本校は「チーム小坂小」です！

先々週（学校再開の週）、スクールカウンセラーに1週間常駐してもらったことをお知らせしました。また、来週から、コロナで中断していた地域の方**（トトロの会）による「読み聞かせ」**を再開していただきます。さらに、**有志の方々が毎朝子どもの見守り**をいただいておりますことはご周知の通りです。

学校の運営は学校職員だけでは到底無理で、様々な学校外の皆さんとの「連携・協働」が不可欠です。

一方、学校内にも、保護者の皆さんが小中学生だった頃になかった「職種」の職員がいます。

その代表が、「特別支援教育支援員（通称『支援員』）」です。学校には、様々な個性を持つ子どもたちが在籍していますが、**場面によって「適応できない困り感」を持つ子どももいます。そのような時に、学習支援や安全確保などの学習活動上のサポートを行う**職員が支援員です。本校には、2名配置（武末支援員、須﨑支援員）されていて、様々なサポートを行っています。

私は、定期的に支援員やスクールサポートスタッフ（コロナ消毒及び事務補助担当：佐方サポーター）、用務（竹下用務員）と意見交換の時間を持ちますが、一人一人の子どもたちのことを実によく見て、様々な関わりをしていることを感じます。

このように、学校内、外で様々な役割の人が、学級を運営したり勉強を直接教えたりする教員と同等に、**子どもたちの将来の自立・自律に向けて「大切な役割」を担って**います。それら、小坂小の子どもの育ちに関わっていただく全ての人が、**「チーム小坂小」の一員**だと思うのです。

ウサギとカメの話

ウサギとカメが山の頂上をめざして競争する話はご存知のとおりです。ウサギは、カメをリードした余裕から昼寝をします。ところが、ウサギが目を覚ました頃には、時すでに遅し…。カメは既にゴールイン！。**「日々、コツコツと努力しつづけることが大切」という教訓**をもとに、子どもの頃から何度も何度も諭されました（涙）。

ところで、ある人がこの話の教訓を次のように解釈しています。**「ウサギはカメばかり見ていたが、カメは山頂のゴール（旗）を見ていた」と。…すなわち、「他人との比較で行動することと、目標に向かって努力することは根本的に違う」**ということでしょうか。なるほど納得の解釈です。

しかしながら、私は親として我が子に随分ひどい言葉を投げつけてきたような気がします。中学生だった娘が成績を大きく落としたとき「〇〇番も落ちるってことは、努力しとらん証拠タイ！」とか、高校野球をしていた下の息子の背番号が二桁（控え）になったとき「監督から信頼されとらん証拠タイ！」等々…。振り返れば、**私の心が「人との比較」にとらわれているのが明らか**です。

例えば、「算数が得意」というのは、その子にとっては一つの「物差し」です。「絵が上手」「言葉遣いがやさしい」というのも物差しの一つであるとすると、細かく数えれば人間は30万個くらいの物差しを持っているのだそうです。それなのに、**たった一つの物差しで「優れている」「劣っている」と他の人と比べられては、子どもにはきついかも知れません。**親として汗顔の至りです。

ところで、ユニークな発想をする私の上の息子にウサギとカメの話を聞かせたところ、「パパ、どうしてカメさんは寝ているウサギさんを起こさなかったの？」ですって…。子どもの感性の、なんとみずみずしいこと…。**「この感性を、人との比較で潰したくないなあ」**と心から思います。

ちなみに、この教訓で何度も何度も諭されてきた元来怠け者の私は、その後の人生において一向に活かされていません（笑）。